| 学校番号 | １２０３ |
|---|---|

# 平成 31 年度　地理歴史科

| 教科 | 地理歴史科 | 科目 | 世界史Ａ | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 世界史Ａ（東京書籍） | | | | | | |
| 副教材等 | 特になし | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史を学ぶとは、世界史を学ぶとは、いったい何を意味するのでしょうか。年号を覚えたり、人物名をひたすらに覚えていくことが世界史の勉強であると思っている人がいるかもしれません。たしかに、過去の出来事についての正確な知識は重要です。しかし、世界の過去の出来事を知るだけで終わってしまっては、世界史を学んだことになりません。ぞれぞれの時代の特徴をうみだした背景や、ある地域と他の地域のつながりなど、そのようなことを考えてみることから世界史の勉強ははじまります。

## 2　学習の到達目標

近現代史を中心とする世界の歴史を，我が国の歴史と関連づけながら理解し，人類の課題を多角的に考察することによって歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

## 3　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:資料活用の技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 授業に積極的に参加しているか。また、世界史に関するＤＶＤやＴＶ番組を積極的に視聴したり，図書館･博物館等に足を運び意欲的に学ぼうとしているか。 | 世界史の授業で学習したことをもとに，現代に起こる様々な人類の課題を，多角的・多面的に考察できるか。 | 図版や年表等の様々な資料を活用して，それぞれの時代の政治・経済・社会・文化等の特徴について理解を深められるか。 | 世界史を理解するために，必要な基本的知識を身につけているか。また、世界の歴史の流れをわが国の歴史と関連づけながら理解しているか。 |
| 評価方法 | 授業中の発表、視聴覚教材の鑑賞態度、プリント提出、課題提出をもとに評価 | 授業態度、プリント提出をもとに評価 | 授業中の発表、プリント提出、課題提出をもとに評価 | 定期考査をもとに評価 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 前期 | ユーラシアの諸文明・一体化する世界 | ・東アジア世界<br>・南アジア・東南アジア世界<br>・西アジア・地中海世界<br>・イスラーム世界<br>・ヨーロッパ世界<br>・一体化する世界 | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | <br><br><br><br><br>○ | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | a:日本に大きく影響を与えた中国の各王朝やイスラーム教の誕生、古代のインダス文明が現代と比較しても優れた都市文明であった点について関心を持つことができる。<br>b:ギリシア諸都市やローマ帝国、唐王朝などの歴史的意義を考察できる。<br>c:人口建造物で世界最大の万里の長城をはじめ、ピラミッドやスフィンクス等の写真・図版を用いて、各世界における文明のスケールの大きさを実感できる。<br>d:モンゴル帝国の成立や西アジア世界が、周辺地域に対してどのような影響を与えたか理解する。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・提出課題<br>・定期考査 |
| 後期 | ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動・現代世界のあゆみ | ・諸革命<br>・19世紀後半のヨーロッパ諸国<br>・アジアの変動<br>・帝国主義<br>・第一・第二次世界大戦<br>・世界大戦後の世界<br>・現代の世界 | ○<br><br><br><br>○<br><br> | <br>○<br><br><br>○<br><br> | <br><br><br><br><br>○<br> | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br><br> | a:世界大戦の単元では、ファシズムの一般概念を理解したうえで，ドイツ・イタリア・日本各国のファシズム体制の異同に関心を持つ。<br>b:これからの日本の国内政策・対外政策に関して，主体的・積極的に考察し，文章にまとめることができる。<br>c:教科書の年表・図版等を用いて、産業革命期の技術発明の歴史を整理する。<br>d:第一次世界大戦の単元では、図版や映像を参照して、新兵器の登場など戦争のテクノロジーの急激な進歩を確認し、これにともなって戦術が変化して、「総力戦」化が現れたことを理解できる。 | ・授業態度<br>・発問評価<br>・提出課題<br>・定期考査 |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。